

2010 年度報告書（研究員）

氏 名	白崎護
職 位	GCOE 研究員（短時間）
<p>研究概要</p> <p>投票をはじめとする各種の政治的な意識や行動におよぼすソーシャル・ネットワークの影響を、計量的に実証する。特に、感情温度（各政党や政治家に対する好感度を 0 から 100 の数値で問う。値が大きほど、好感度は高い）への影響を見る。「21 世紀初頭の投票行動の全国的・時系列的調査研究（JESIII SSJDA 版），2001-2005」をデータとして、パネル分析を行う。</p> <p>自民党に対する感情温度の規定因を探索したところ、対人接触については「自民党を支持する目上の者」と政治や選挙に関して話す機会を持つ場合、これが自身の自民党を支持する強い原因となると判明した。他方、マスメディア接触に関しては、「サンデーモーニング」の視聴が自民党への好感度の向上に寄与する効果が、弱いながら見られた。政策争点に関しては、小泉内閣の財政構造改革に対する評価が高いほど、自民党への好感度が増した。民主党に対する感情温度の規定因に関しては、対人接触について、やはり「民主党を支持する目上の者」と政治や選挙に関して話す機会を持つ場合、弱いながらも、これが自身の民主党を支持する原因となると判明した。他方、マスメディア接触の効果は確認できなかった。政策争点に関しては、小泉内閣の外交に対する評価が高いほど、民主党への好感度が抑制される強い効果を確認した。成果全般を研究目的に照らせば、対人接触から影響を被る要因は相手との上下関係にあると判明した点が、最大の知見である。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>論文：「投票行動研究における同調の説明」</p> <p>（今月末までに、『年報 政治学』（日本政治学会編）に投稿する。）</p>	

